

# 令和6年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究2	公益目的事業 11
主査名	井原健雄 香川大学名誉教授・亀山嘉大 佐賀大学教授	
研究テーマ	技術的・経済的・法的な視点の融合に基づく四国・九州地域における移動・輸送手段の自動化の現状と課題	
<p>本研究目的は、AIを活用した自動運転や空中配送（ドローン）など技術の進展が、四国・九州地域における移動・輸送手段の改善にどのように貢献しているのかを定量化し、経済的に評価するとともに、改善の妨げになっている課題を定量化し、法的に評価することである。</p> <p>令和3年度まで実施してきたプロジェクトでは、政策主体として、住民、事業者、自治体、国の役割分担を追究しながら、地域公共交通を維持し確保していくための仕組み、政策や計画のあり方を考察してきた。政策や計画の問題点を顕在化させるという点で、一定の成果はあったが、未来展望を描きにくいという課題が残っていた。本研究では、未来展望を描く方策として、AIを活用した自動運転や空中配送（ドローン）など技術の進展とったイノベーション要素を取り込むことで、課題の克服に努めたい。なお、空中配送は必要に応じて、災害対応も含めた調査・研究を行う。</p> <p>交通政策の基本精神は“地域の足は地域で守る”ことであるが、現在のスキームのもとで、公共交通の維持をしようとすると、赤字経営や人手不足の問題から逃れることはできない。本研究プロジェクトが取り上げる四国・九州地域では、地域公共交通網の維持が困難になる中、都市の縮退（shrink）が課題となって久しいが、都市計画など土地利用のあり方は容易に変わらない。その意味でも、MaaSやシェアライド、さらには、本研究が取り上げるAIを活用した自動運転や空中配送（ドローン）など技術の進展といったイノベーション要素自体の費用対効果の検証を含めて、これらの価値を経済的・法学的な視点から評価することには意義があるものとする。</p> <p>本研究では、第1に、企業や自治体への聞き取り調査（あるいは、招待講演）によって、四国・九州地域におけるAIに基づく自動運転や空中配送（ドローン）など技術の進展を把握する。調査対象は、福岡空港内、あるいは、北九州空港とJR朽網駅の区間で自動運転の実証実験を段階的に実施している西鉄バスなどのバス会社、多岐市で「空の道」を開拓しているトルビズオンなどを想定している。その上で、第2に、アンケート調査などを実施し、そのサーベイデータを活用して、自動運転や空中配送の経済面（費用面）の課題をデータ分析によって検証する。第3に、自動運転や空中配送の経済面（費用面）の課題を道路交通基本法や刑法などの視点から文献調査によって検証する。研究会では、この3つの視点のもと、工学、経済学、法学などの学際的な専門知識を融合させて議論を進め、報告書にまとめる。</p>		